利賀っ子だより

R4．11．9

○ 自分たちの暮らしを整える

一輪車の乗り方

【壁の近くは危ないよね】

先日、一輪車の練習をしていた時に、勢い余ってつかまっていた台が倒れ、足をぶつけるということがありました。幸い大事には至らなかったものの、頭がぶつかっていたら・・と思うと肝が冷える思いでした。

一輪車に上手に乗ることができるようになるにつれ、スピードを出したり、新しい技を試してみたりしている様子を目にし、この場所での一輪車練習は、危ないかなという思いもありました。

せっかく子供たちが目当てをもって取り組んでいることに禁止事項を示して、ブレーキをかけたくはないけれども、安全の確保は必要であると考え、子供たちと一緒に対策を考えることにしました。

子供たちからは、

「壁に触ると画びょうが落ちてくるかもしれない。壁には触らないようにしよう。」

「（一輪車の乗り降りに）ピアノにつかまったら、ピアノが倒れるかもしれない。」

「体育館で一輪車をしたらよいけど・・遠い。」

「体育館まで行くと、練習する時間が少なくなる。」

「危ない所はコーンを立てよう。」

「コーンは、掃除のときに邪魔になる。」

「コーンではなく、黄色と黒のテープにしよう。」　など、具体的な場面を考えながら意見を出していました。

後日、 みんなで確認しながら、プレイルームの床にテープをはりました。これでしばらく試してみようと思います。

廊下を歩く

【走らないで】

５ 年生の子供たちが国語科「よりよい学校生活にするために」で、自分たちの学校生活を見直し、課題の解決に向けて話し合うという学習をしています。事実と意見、感想を区別したり、意見の伝え方を考えたりする話合いの仕方の学習なのですが、それだけに終わらず、話し合ったことを実践に移しているところが、５年生の子供たちの素敵なところです。子供たちそれぞれが、解決したいことを見付け、その方策を探っていました。

その中で、「ついつい廊下を走ってしまう」ことについて考えている子供がいました。１ 学期にも全校で話題になり、「廊下を歩こうキャンペーン」を実施し成功したはずでしたが、時が経つにつれ、意識も薄れていったことに問題意識をもったようです。話し合いの結果、廊下の真ん中に上の写真のような注意喚起がなされていました。

自分たちの暮らしを見つめ、考え、自分たちで整えていく子供たち。これからも教職員全員がチームとなって、こんな姿を支えていきたいと思います。　　（高田　公美）